

書牘卷之二(三)

送り証^證文

覚^覺

一、何包 何十箇

運賃^錢何錢^錢濟

右運漕^會会社定便ヲ以て積

送り候也、其地着之上、此

証書^證より引合せ、御落手成

さる^久へく候、後日のため、証書^證

差入候也、

明治何年何月何日

何某

何某殿

※漢字は全て新字体に直したが、原文が旧字体に近い書体で書かれている場合は、右脇に旧字体を添えた。

※変体仮名は現行の平仮名に直した。なお、字母に当たる漢字を右脇に添えた。